

祝祭日には国旗を掲揚しましょう

# 敬神尊皇 黎 REIMEI 明 報恩感謝

監修/日刊ひぐらし 〒151-0071東京都渋谷区本町1-30-18-107 <http://www.higurashi.net/> 第0033号  
護國青年會議 <http://www.gokoku.net/> 発行人/山本修三 編集人/戸出蒼流 平成19年1月20日



今上陛下御製

外国とっくにの  
旅より帰る  
日の本の  
空赤くして  
富士の峯立つ

皆々様には輝かしい新春をお迎えのことと心よりお慶び申し上げます。

新たな年を迎えて「いよいよ日本国民が日本人としての矜持を示す時が来た」との感慨を一層強くしております。

国外においては、支那による歴史捏造プロパガンダを柱とする反日活動が激しさを増し、支那はその本性を剥き出しにして恫喝外交を仕掛けてくることでしょう。それに乘じて朝鮮半島の愚民どもは、支離滅裂な論理をもつて得意の物乞い外交を押しつけてくることでしょう。

国内においては、これら特定アジアの理不尽な要求に隷従する政治勢力やジャーナリスト達が、国を売らんとするメディアを駆使して国民の思想破壊に跋扈することが予測されます。

このように内憂外患こもこも至る中、昨年、安倍晋三内閣がスタートしましたが「美しい日本」は未だ見えて来ず、内閣の支持率が四〇%台に急落してしまいました。郵政造反組の復党問題が多分に影響しているのですが、何と云っても国民の心に届かない答弁、見えて来ない総理の姿が原因ではないかと思えます。しかし、首相は就任以来初めて「保守待望の星」の真の姿を見せてくれました。安倍首相は「皇室典範に関する有識者会議」がまとめた「女系天皇容認」を白紙撤回し、小泉前首相が残した最大の汚点を払拭することを決断しました。さらに憲法改正を今夏の参院選の争点とすることを明言しました。

百二十五代に亘り連綿と受け継がれてきた万世一系の皇統を守るために「真の皇室典範改正」は不可欠となります。また憲法改正は、失地領土奪還とともに我々日本人の悲願であり、日本が普通の国となるか否かの分水嶺となります。安倍首相が、カルト教団や売国政治家の容喙に臆することなく、信じた道を突き進んで行くことを切望します。

新年にあたり、天皇陛下が仰った「皆が互いに信頼しあつて暮らせる社会を目指し、力を合わせていくよう」というお言葉は、我々日本人が失いつつある家族の絆、地域社会への貢献、国を愛する心、それらを回復することが課題であることをお示しになられたのだと思います。陛下のお言葉を噛み締めて一人一人が日本再生へと邁進すれば、新しい歓びはすぐそこにあると確信します。

本年が、皆様方にとりまして幸多き年となりますようお祈り申し上げます。新年のご挨拶に代えさせて戴きます。

平成十九年一月一日

編集人・戸出蒼流



新春を迎え、これまでの活動を省みるとともに一年の抱負を述べさせて戴きます。

光陰矢の如しと言いますが、月日の経つのは早いもので、「日刊ひぐらし」の一員として護國青年會議の活動状況を取

材させて戴くようになり、一年二ヶ月が経過しました。その間、皆様にはお世話になるばかりで今年は昨年以上の取材活動をして恩に報いようと思っていました。年頭の大事な行事の際に失態を犯してしまい反省から始まる年にしていまい慙愧に耐ええない思

いです。今年はずりとう覚を持って取材活動に励み、インターネットを通じて若者達に「愛国心・日本の素晴らしさ・日本人としての自覚と誇り・敬神

尊皇の精神・報恩感謝の心」など日本人として肝要な気構えをどのようにして伝えていくべきか、その方法を模索しながら活動を続けて行きたいと思えます。

私個人の力は山間の湧き水にも及びませんが、そんな湧き水でも数を尽くせば大きな清流となり、隙あらば日本を陥れようとする支那や南北朝鮮、それに加担する獅子身中の虫とも言える売国政治家や反日マスコミを一掃してくれる事と確信します。

元就の三本の矢の逸話のように、「日刊ひぐらし」スタッフ一同は心を一にして、この道を邁進して行く所存です。本年も倍旧のご厚誼を賜りますよう謹んでお願い申し上げます。

一月五日 加藤浩司

世間では昨年から引き続き、いじめ問題が議論を呼んでいますが、加害者、被害者にはかり注視しているせいか、物事の根幹がもつと深くにある事を見逃している気がしてなりません。

いじめ問題の根っこに有るものとして、要は多数派が少数派を認めない排他的行為でしか無く、この事象は現在、それこそ憂いもなく有り難がるGHQ産の民主主義に他ならないと思えます。

敗戦を以て、否応無しに押し付けられた舶来の思想と理念は、現在、他の欧米諸国と寸分違わぬ格差を生み出しました。政府の説明責任も果たされぬままに、有耶無耶にされて、国民はそれこそ長い物に巻かれた状況になってしまったのだと感じます。どちらの事柄も振り回されず、正しい事を追求する精神が必要だと思えます。

またメディアでヤンキー先生だか何だかが中心となつて、被害者に向けて何かと教育委員会に駆け込め、逃げると言う行爲は、今の外交姿勢に通じてはいないでしょうか？

社会や大人が逃げることを容認した結果、ニートやパラサイトシングルと言われる輩が跳梁跋扈し、拳げ句に国家として対応に追われる羽目になつていくように思えます。しかしながら誰かが面倒を見られるなら、まだましです。外交は逃げれば逃げるほど国益は損なわれ、やがて乗っ取られてしまわれるでしょう。誰も守つてはくれません。事実

資源の採掘、領土の占有、国民を危機に曝す食事情等、取り返しの付かない事ばかりです。どの事柄も外圧や危機に對して闘う気骨、信念が必要だと感じます。ひつきようするに勿論、無

責任に民主主義を否定するもものでは有りませんし、馬鹿な政治家の積み重ねた愚行のお陰で、外交上、巻き返しの苦勞が有ることも承知しております。ただ子供は大人を見て育つものです。児童、青少年の中で起きている出来事は、我々が構築している社会をありのままに映した縮図と感じてならないのです。

戦後、言いなりな状態が続いていましたが、特定アジアの呆れる反日運動で我が国における意識も変化があります。しかし年末に物議を醸した「週刊金曜日」の皇室侮辱や新しい教科書の採択に対して圧力をかけてくる団体や弱者を装い国益を吸い取るうとする

在日の特定アジア人、また過度に米国を信奉し、飼い慣らされ真の独立を放棄する者等がまだまだ多数を占めており民族派愛国者は少数派です。今年も「正しい事を追求する精神」と「闘う気骨、信念」を以て内外様々な問題を訴え続けていく所存です。もとより浅学非才な若輩者でございます。今後変わらぬご指導とご鞭撻を賜りますよう衷心よりお願い申し上げます。

一月七日 吉田源太

先帝陛下を偲んで

前日の雨が嘘のように晴れ渡った一月七日午前十一時半武蔵野陵墓地に参集した護國青年會議の一行四十名は、先帝陛下が御座す武蔵野陵へと歩を進める。手水場の水は清冽で、冷たく吹く北風は、辺りの空気を一層凜としたものに変えていく。玉砂利を踏む音だけが一定のテンポで聞こえる空間の中、武蔵野陵の鳥居が間近に迫る。鳥居の前で黙礼して列を整えると、「掛けまくも畏き武蔵野の陵の大御前を拝み奉りて・・・」と拝詞の奏上が始まる。一行は頭を垂れ、激動の昭和を国民と共に歩まれて来られた先帝陛下を偲んだ。

戦争責任を御自ら背負われて、マツカーサーの前に御身を投げ出され、国と国民をお救い給もつた先帝陛下、全国を行幸なされ、敗戦で疲弊した国民一人一人に御力をお与えになられた先帝陛下、その御力が国民に生きる希望と未来を創る喜びを与え、我が国はわずか三十年で世界第二位の経済大国になった。

常に国民の暮らしぶりをこ案じなされた先帝陛下の御人柄を偲び、謹みて大御前を拝礼奉った。玉砂利を踏む音だけが聞こえてくる時空を超越した佇まいの御陵であった。

編集人・戸出蒼流



祝祭日には国旗を掲揚しましょう